森林と人をつなぐかながわ森林インストラクターの会　2024 年令和 6 年 11 月 1 日発行　通巻第 342 号

森のなかま

２０２４年　１１月号
ＮＯ．１９７（継続３４２号）

NPO法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　黒川　敏史
〒243－0018　厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号　℡046－297－0301・Fax046－297－0302

【森林癒やし部会主催】アロマハンドマッサージ研修会

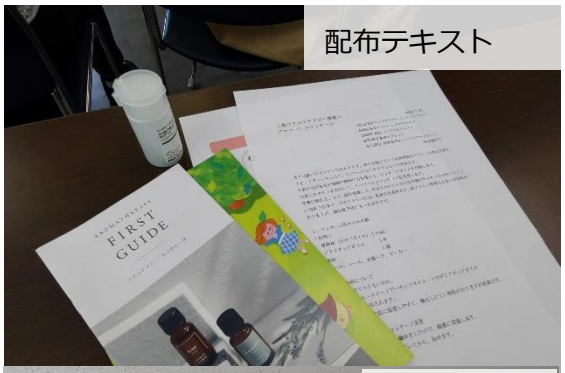
日時：令和６年７月27日（土）　10：00～12：00
場所：かながわ県民センター
講師：時田⑩
参加者：久保田⑤、若林⑦、宮下⑩、真貝⑪、山下⑪、前田⑬、笠原⑭、久慈⑯、久次米⑯、鈴木⑯

森林癒やし部会主催のアロマハンドマッサージ研修会を開催しました。五感で自然を感じる体験を提供する「森林癒やし体験」。今回はこの五感のうち『臭覚』と『触覚』にフォーカスを当てた研修となります。

まずは講義では香りを嗅ぐことで自律神経のバランスを整える効果などがあることや、触れることで幸せホルモンと言われるオキシトシン分泌が促される作用などの解説。また、それらが複合的に働くことで生まれる効果などを学びます。皮脳同根（ひのうどうこん）の考え方も説明いただきました。また、講師の時田さんが実践されてこられているアロマハンドマッサージを通しての被災地支援のお話も伺い、相手の気持ちに寄り添った接し方や施術後に相手の方の表情が明るくなっていた話などを聴き、相手にあわせた接し方の大切さも再認識しました。

講師の時田さん

つぎにマッサージ用オイルの作成。今回はヒバとラベンダーの2 種類で好みの香りのマッサージオイルを作成してもらいます。キャリアオイルは肌に浸透しやすいホホバオイルを使用しそれぞれの精油の効果を伺いました。ヒバとラベンダー以外の香りも体験してもらい好みの香りが一人ひとり違うことも認識できました。お気に入りの香りが見つかった人はマッサージ用オイルのレシピも資料にありましたので、おうちで好きな香りのオイルを作成していただくのも良いと思います。


配布テキスト

最後はアロマハンドマッサージの実践です。必ずパッチテストを行うことを学び、アレルギー反応が出なかったことを確認してからハンドマッサージを開始します。まずはセルフでハンドマッサージを行います。つぎに講師の時田さんの手技を一人ひとり体感していただきます。ここでは「指圧のような強さでやってしまっていた」「こんなに柔らかい力加減でよいのか」など、非常にゆっくりと摩る感覚にみなさん驚かれていました。お気に入りの香りと心地よいハンドマッサージで癒やされることを実感できた研修となりました。今回作成したハンドマッサージ用のオイルは参加者様にお持ち帰りいただきましたので、おうちでも今回の研修の復習ができたのではないかと思います。

森林癒やし部会ではこれからも五感で感じる体験や自然を五感で感じる体験の研修を開催していきたいと思います。

（記・写真　若林 良子⑦）

研修の様子

第 16 回森林文化講演会

日時：令和 6 年 9 月 7 日（土）　13：30～15：00
場所：あーすぷらざ（横浜市栄区）
講師：武川 俊二⑥
参加者数：59 名

2024 年 9 月 7 日（土）第 16 回森林文化講演会が本郷台にある「あーすぷらざ」で開催されました。映画館のような会場に 59 名が参加、大きなスクリーンを見ながら、ゆったりとリラックスしてお話を伺うことができました。

講師はかながわ森林インストラクター6 期生でもある武川俊二氏、「山岳アドバイザー」とのご紹介でしたが、講演のはじめに世界地図の映像が出て、世界の名だたる山を制覇されたと聞き、世界中の冒険談を聞けるとワクワクしました。

前半はモンブランの岩壁登攀、ヒマラヤ、中央アジア、キナバル山など、美しい山の映像とともに命がけの登山のお話を伺いました。

またシベリアの森林では、植林活動に参加されたとのこと。ここでも自然発生する山火事の他、木材を得るための伐採で広大な森が失われていました。ロシアや中国の経済活動による破壊は止まらず、再生は追いつかない現状、地球温暖化への影響が深刻であることを知りました。厳しい自然環境での生活や、現地の少数民族との交流などのお話も興味深いものでした。

後半は国内での活動について伺いました。
武川さんは現在国内で様々なツアーを企画し、ガイドとしても活躍されています。その中で玉原でのブナ林ツアーのお話がありました。

前半で世界の美しい山や森の映像を見せていただきましたが、日本のブナの森は繊細で柔らかく美しく、あらためて日本の森の素晴らしさを実感しました。

玉原では半年間に中学生 2400 名を案内したそうですが、知識を深めることはもちろん、森の中の風、光、匂いなど五感で感じてもらうことも大切とのアドバイスをいただきました。

未来を担う若者達に日本の森の素晴らしさを伝え、森を大好きになってもらえるように活動していきたいと、想いを新たにした講演会でした。

(記 牛島 則子①　写真　井出 恒夫①、菊地 昭子①)

【森林技術部会主催】　間伐研修会①

日時：令和 6 年 9 月 14 日(土) 9:30～15:00　晴れ
場所：箱根町畑宿　県有林
講師：統括 岩田⑭、滝澤⑤、斉藤⑬、石井 裕⑮、高谷⑰、三浦⑰
参加者：湯浅⑪、石垣⑮、大見⑮、河西⑮、小池⑰、藤田⑰、広浜⑰、野口⑰、柳沢⑰

・今回の間伐研修は、様々なタイプの間伐作業の実践を通して安全確保及び実技の再確認をし、インストラクターとしての技術と知識の向上を目的として開催されました。
・街中では熱中症アラートが発令される温度でしたが、研修場所は高度があるためかそれほどの蒸し暑さを感じることなく、空にはオオタカ？やトンボが舞うなど、好天のもと研修は開始されました。

・当地は、平成２４年におよそ２ha に６,８００本の杉が植林されており、今後１０年間に３,０００本の間伐が計画されています。これまでも、枝打ちの実習や県民参加の森林づくり活動が行われた場所ですが、木の密度が濃いうえに相応の背丈に成長した木々に覆われており中に入ると鬱蒼とした暗闇に囲まれ、注意をしていないとフト自分がどの場所にいるかわからなくなる感があります。

・今回の参加者は、頻度の多寡はあるせよ皆相応に間伐の経験があるメンバーであり研修は、まず一人が一本ずつ間伐作業の手順、安全確保の再確認をしつつ伐倒後の処理まで完遂させる流れで進められました。
・選木された中でも、曲がったりして重心が不安定であったり、二股気味で伐倒方向に注意を要する木々、傍に切株等の障害物がある際の受け口とロープの位置関係等、より経験値を高める状況の木々を選び作業は行われました。

・木々の密度が濃いため掛かり木になるケースが多く、研修後半では掛かり木の処理方法をいろいろな事例を想定し、倍力システムの利用やロープでの引き倒し、フェリングレバー使用の注意点等を確認し各自が一連の作業を安全に完遂できるよう技術の習得に努めていきました。

・反省会では、県民参加の森づくり活動を想定し、活動場所は暗いため目が慣れるまで時間を要し、枝打ちされた枝が堆積されており移動中の足元に注意を払うとともに、作業時の周囲の安全確認はより慎重に行う必要がある等が述べられました。
・間伐作業は日常の生活の中ではなかなか経験できることではなく、皆でロープを引き、木が倒れていく様を実体験することは、森づくり活動参加者にとって感慨深いものと思われます。同時にそこには間伐ならではの危険も潜んでおり、一連の作業を安全に執り行っていくインストラクターの役割は重要であることを改めて再認識し研修は終了しました。

（記　柳沢 徳雄⑰、 写真　岩田 典義⑭）

活　動　短　信

今回の掲載は R6 年 8 月 2 日から R6 年 8 月 24 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

11 月（霜月）（旧暦 10 月神無月）の二十四節気 /七十二候、鳥こよみ

立冬 11/7 小雪 11/22 /楓蔦黄(もみじつたきばむ)
11/2 モミジやツタが色づくころ。今年は残暑が長引いたので美しい紅葉を見ることができるか気がかりです。
鳥こよみ: 秋の夕暮れといえばカラス。でも秋～冬の夕暮れに集団で塒（ねぐら）入りする様子は、童謡に歌われるような雰囲気とは異なりかなり喧しいです。塒の安全を確認する就塒（しゅうじ）行動だそうです。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です（200 字程度で、Word、メール直筆は可、Excel は不可）。**写真はなくても構いません**(紙面の都合上最大で 3 枚とします)。
◆ 活動団体・活動名 等
日 日付:令和 x 年 x 月 x 日（曜日）できれば時間と天気も
場 場所 （例:相模原市緑区 長竹承継分収林）
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師
ス 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター① （〇数字:期） 研:研修枠
以下、本文を400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。（執筆者名、写真撮影者名＝フルネーム＋期 もお忘れなく！！）
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)m

◆ 神奈川県水道記念館様　水源林保全体験

日 令和 6 年 8 月 2 日（金） 9：00～16：00 晴れ
場 県立 21 世紀の森
参 13 名（大人 6 名 子ども 7 名）
ス 水道記念館 北村様 他 3 名、動画撮影隊 6 名、21 世紀の森 弘島様
財 倉野様 看 古谷様
イ L 田島⑰、滝澤⑤、石垣⑮、岡村⑯

予定より早く 21 世紀の森に到着したバスから、元気な子どもたちが降りてきました。今日は、マダケのエリアを樹種転換するため、マダケの皆伐のお手伝いです。

現場では、まずリーダーインストラクターから竹の伐り方やそのあとの処理の仕方のデモンストレーションを受けてから、3 班に分かれて作業開始。自宅の庭や田舎で「おじいちゃん」と鋸や剪定ばさみを使っている子たちは、どんどん作業をしていました。斜面の苦手な子は、下の方で剪定ばさみを使いながら枝の処理をしてくれました。暑いので頻繁に休憩を取り、約 1 時間の作業でしたが、周辺が少しすっきりし、皆がもう少し伐りたいというところで終了となりました。

午後は21 世紀の森職員の指導で箸づくり。ヒノキの角材を小さなカンナで削りながら、香りも楽しんでいました。最後に水道記念館の北村様が、ススキの葉脈と葉を分けてそれぞれを器用に折り曲げて作った「バッタ」も本日のおみやげとして子どもたちに配りました（写真を撮影できず大変心残りです。。）

今回は動画撮影隊が入りました。音声（インタビュー）も記録に残るとあってか、子どもたちはインタビューにはきはきと答えていました。最後はバスの中からカメラに向かって元気に手を振って帰っていきました。
（記 滝澤 洋子⑤・田島 聖一郎⑰、
写真 石垣 桃栄⑮）

◆ 自治労神奈川県本部様　NW活動（下刈り）

日 令和 6 年 8 月 2 日（金） 10:00～12:00 晴れ
場 21 世紀の森（成長の森：H30 中央通路の西側）
参 23 名（大人）
財 倉野様 看 五十嵐様
イ L 藤田⑰、斉藤⑬、角石⑮、森本⑰

自治労神奈川県本部の環境（水）保全の取組みとして「下刈り」が 21 世紀の森で行われた。

参加者は川崎下水道労組や横浜交通労組、茅ケ崎市職労など各自治体の組合員で、8 月の「水週間」に合わせて行っている。コロナ禍で 5 年ぶり 24 回目の開催となった。

自治労県本部の代表から、これまでの取組みや熱中症対策として、こまめな水分補給を心がけるよう挨拶と諸注意があった。その後、インストラクター紹介、活動の諸注意、準備体操を行い、3 班に分かれ道具を受け取り、作業現場へ移動した。

作業現場は、平成 30 年度に植樹した成長の森で、植樹から約 6 年が経過し樹高も 2 メートルを超えていたが、雑草も同じくらい伸びていた。安全目標は「熱中症注意」

で、作業中も適時、水分補給を行うよう周知した。

下刈り作業では、カマの使い方をレクチャーし、上下作業、近接作業とならないように注意し、小休憩を挟みながら作業を進めた。気温が 30 度を超え、大変厳しい作業環境のため、実作業は 1 時間ちょっとであったが、下刈り作業後は視界が開け、風が抜けるようになり、達成感を感じ心地よい汗を流すことができた。

参加者からも「貴重な体験ができました。」と感想があった。

（記　角石 正明⑮、写真　藤田 あずさ⑰）

◆　神奈川県水道記念館様　竹林除伐・クラフト工作

日　令和 6 年 8 月 9 日（金）10:00～14：30　晴れ
場　県立 21 世紀の森
参　大人 8 名、子供 8 名
ス　水道記念館　北村様他 3 名、21 世紀の森　弘島様
イ　L 牧石⑭、西出⑫、石垣⑮、岡村⑯

きびしい陽ざしの中、県内から森林保全のための作業・工作に応募したご家族が元気に集いました。午前中はマダケの伐採作業を行いました。体操で体をほぐした後、３班に分かれ用具を装着し出発しました。現場到着時にはすでに汗だくでした。各班のインストラクターから竹の切り方・整理の仕方を教えて貰い、親子でペアを組み作業を開始しました。木陰の無い炎天下で、兄妹で助け合い、母子、父子で協力しながらの作業となりましたが、誰一人弱音を吐かず黙々と切り進みました。そんな頑張り屋の子供たちに、インストラクターから竹を切りその場で作った貯金箱のプレゼントがありました。両手で抱えて喜び思わず笑顔がこぼれていました。午後は箸作りを行いました。職員の方の説明を受けた後始めましたが、握りの部分の丸さに苦心しカンナをかける人、口の当たる箸先にこだわりヤスリをあて続ける人、４人分８本を握り自分の箸を当てる家族とそれぞれが作成を楽しむ時間となりました。「家族で同じ作業を体験出来たのが良かったです」と皆さま笑顔で帰路につかれました。

（記　石垣　桃栄⑮、写真　牧石　稔⑭）

◆　第６回県民参加の森林づくり　下刈作業

日　令和 6 年 8 月 17 日（土）9：00～14：00　晴れ
場　秦野市菩提
（R4 緑の祭典植栽地・秦野市表丹沢野外活動センター）
参　44 名
財　豊丸課長、藤本様
ス　秦野市 森林ふれあい課　川上様　看　実方様
イ　L 森本⑰、井出①、柏倉④、内野⑨、水口⑨、古舘⑬、大見⑮、飛田⑮、小野寺⑰、田島⑰、鶴田⑰

台風一過の晴天の下、秦野駅に集合。かながわ緑の大使の佐藤さんも早朝から参加して参加者をお迎えし、参加者と共にバスで現地に向かいました。

作業開始直後の鬱蒼とした下草の様子

現地集合の参加者と合流してオリエンテーション実施後、5 班に分かれ作業場所に移動しました。作業場所は植栽した木が見えなくなるほど（約 1.5m）に伸びた下草が生い茂った状態でした。また、所々に大きく生育したタラノキ（樹高 2m、直径 3cm）も散見され、作業の妨げになる場面も見られました。下刈作業に慣れている参加者も強烈な日差しと湿度で作業が難航するなか、適宜休憩を挟みつつ作業を進めて頂きました。約 2 時間の作業となりましたが、熱中症予防として休憩と水分補給の呼びかけ徹底を事前ミーティングで確認した甲斐もあり、熱中症による救急搬送やけが等もなく無事に作業終了できました。

作業終了後の植栽地の様子

作業中は班ごとの作業進捗を見て他の班エリアへ応援を調整することで、最終的に作業前とは見違えるほどすっきりとした風景が広がり、参加者の満足げな様子から充実感を感じて頂けたと思います。（記 小野寺 将⑰、写真 森本 利弘⑰）

◆　神奈川県水道記念館様　水源林保全体験

日 令和６年８月 23 日(金)10：00～14：30　曇り
場 やどりき水源林
参 25 名（大人 12 名　子ども 13 名）
ス 水道記念館　北村様　他４名　動画撮影隊　３名
財 倉野様 看 １名
イ L 牧石⑭、西出⑫、石垣⑮、岡村⑯

今にも雨が降りそうな空模様であったが、活動に影響を与えませんでした。午前は、林道コースで自然観察、午後は水生生物観察を行いました。参加者は全員親子連れであり、３班構成としました。林道コースはやどりき大橋を渡り林道ゲートまでとしました。樹木（タマアジサイなど）の説明等を適宜行っていきました。独特な容貌をもつマムシグサに興味を示した方もいました。なかには、草花よりも虫に興味を示す子供たちもいましたが、自然に触れる楽しみを味わっていました。また、やどりき大橋から谷底を流れる上流・下流の中津川の眺めとゲート近傍のムササビの巣穴の観察は従来の自然観察とは異なる感動を与えました。

午後の水生生物観察では、子供たちの目の色がかわり、衣服が濡れるのも構わず、無心で網を操っていました。石の下や流れが滞っている場所を見つけては、生物を採取していました。バケツに採取した生物を広場に持ち込みバットに移し、更に観察容器や観察カップに移し観察を行いました。ヘビトンボの幼虫、カワゲラの幼虫、トビケラの幼虫、サワガニ、オタマジャクシ、カジカ等が採取され、興味をしめしていました。怪我もなく自然に触れ、楽しい時を過ごされたと思います。

（記 岡村 寛⑯、写真　牧石 稔⑭）

◆　三菱重工エンジン＆ターボチャージャ様 森林活動

日 令和６年８月 24 日（土）10：00～14：45 曇り・雨
場 やどりき水源林
参 36 名　（大人 20 名 子供 16 名）
県 藤原様、星様
イ L 森本⑰、上宮田⑪、山下⑪、西出⑫、藤井(世)⑭、牧石⑭、内田⑰

活動当日の天気予報は午後から雨。朝、やどりき水源林に向かう途中の空は晴れているものの、檜岳・雨山付近の空の色は明らかに怪しく、「天気予報が外れますように」と祈りつつやどりき水源林に向かいました。

社内交流目的の森林活動であり、午前中は林内整備と自然観察、午後は水生生物観察、クラフト体験、森林癒やし体験の 5 つのプログラムを準備し、多くのご家族が参加されました。

林内整備の作業場所は片道約 40 分かかる平成 20 年度植樹エリアで、道中はヤマビルと格闘しながらの移動でした。　ツル切り作業は 15 分程実施し、幅 10m 奥行き 1m ほどのツル切り、クワの木等の除伐を行いました。　移動に時間のかかる場所での作業で「森林保全の大変さ」と作業後の林内に光りが差し植樹した木々が生き生きしたように見え「作業後の爽快感」を参加者も感じていました。帰路では突然の雷雨でしたが、子供たちはレジャーシートを傘代わりに楽しそうに歩いていたのが印象的でした。

自然観察は、B コースを散策しました。気温・湿度とも高く、林内整備と同様にヤマビルに悩まされました。立ち止まった時には「足踏み！」「足下確認！」が合い言葉でした。コース沿いの樹洞やムササビの食痕の観察、木々の葉の香りや感触を楽しみ、五感をフル活用。また森林と水の関係についても理解を深めていただきました。

お昼頃に降り出した雷雨。雨宿りをして天候の回復を待ち、午後のプログラムを開始しました。

水生生物観察は、川の状況を見つつ水生生物の採集を行いました。このプログラムを楽しみに参加されたお子さんもいて、網を片手に夢中で採集していました。石を動かしたり、場所を変えたり、それぞれのスタイルで採集していました。この日は、きれいな水の川で暮らすといわれている「カジカ」を３匹採集することができ、じっくり観察も行いました。

クラフト体験では、自分たちで切った丸太に思い思いの絵を描いたり、色を塗ったり・・・カラフルなコースターのお土産ができました。

森林癒やし体験は、雨の影響もあり木伝導のみ実施となりました。初めて体験された方が水の音を聞いた後、「聞こえました～」と満面の笑みでお話してくださいました。

午後のプログラムは雨の合間を縫って行い時間短縮となりましたが、全てのプログラムを体験していただくことができました。

夏休み終了間近の一日を自然の中で過ごし、思い出作りができたと思います。

（記 森本 利弘⑰・内田 祐子⑰、写真 内田 祐子⑰）

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前 10 時と午後 1 時から「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

「やどりき水源林ニュース」

10 月号は「やどりき水源林の渓流散策（寄沢の石に注目して歩いてみませんか?）」です！

森のなかまは過去号もご覧になれます。
（ホームページ）　https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01
（HP 担当 ： 森本　利弘）

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

＜広報全般についてのお問い合わせ＞
河西　静夫
skasai0618@gmail.com

＜電子配信会員向け担当＞
小池　宗子
muneko-sakura@outlook.jp

＜メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】河西　静夫
skasai0618@gmail.com
　黒川　敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国　一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
　河西　静夫
skasai0618@gmail.com

◇ 編集後記 ◇

★ 東北地方の生まれなので、柑橘類に憧れます。冷蔵庫の野菜室に何種類の柑橘が入っていたら、ここは果物屋さんか！と嬉しくなります。今年、岩手の敷地に、お試しでレモンの木を１本植えました。この冬を無事に越してくれるか心配です。そして、これからの季節の楽しみは、斜面のミカン畑を見ながらドライブすることです。緑の中に点在するビタミンカラーが元気をくれます。（小池）

★ 以前、自前プリンタのカラー両面印刷で印刷ズレが多発し、軍手をはめて紙送りローラを清掃し、やっとのことで印刷した経緯を紹介しました。その後もいろいろ試していたのですが、コピー用紙を表面がややざらついたもの（価格も少し安かったりします）に代え、給紙トレイに多めにコピー用紙をセットすることにより、ほとんど失敗することが無くなりました。諦めて新しいプリンタ（現用機もさほど古くない）を購入するかとも考えていましたが、粘り勝ちです。（小国）

★ 鎌倉の田んぼの収穫が終わりました。昨年は収量が少なく苦労しましたが、今年はまあまあの出来です。　収量が多いと作業が増えるのでそれはそれで大変なのですが、やはり豊作だと気持ちが前向きになれます。それにしても令和の米騒動は何だったのでしょうか？在庫の脆弱性がわかりましたが、米価格が上がったままですね。政府の陰謀？（黒川）

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で５番目／ＮＰＯ法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団
TEL ： 045-412-2255　/　FAX ： 045-412-2300
https://ktm.or.jp/　　Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会
https://www.forest-kanagawa.jp/　Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

人も自然も いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の ホームページでご覧ください。
http://www.tanzawasaisei.jp/

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454　かながわ森林インストラクターの会

宛まで２０００円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回／1 年間お届け致します。

編集人：　河西　静夫
広報部：　黒川　敏史、松本　保、
　笠原　かずみ、長尾　晴子、
　小林　照夫、小国　一男、
　小池　宗子
支援：　大原　正志、吉田　郁夫

2024 年度　森林探訪

主催：認定 NPO 法人　かながわ森林インストラクターの会

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

第 2 回　日向薬師から日向山･七沢温泉へ

共催：　丹沢大山自然再生委員会

行基が開山したという日向薬師と、周囲の寺林から続く木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024 年 11 月 30 日(土)
申込締切：11 月 22 日
集合：小田急伊勢原駅改札前　8:30 集合
解散：七沢温泉入口バス停　15：30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停🚻→日向薬師🚻→日向山山頂→亀石→七沢温泉→七沢温泉入口バス停🚻(解散)　バスで本厚木駅へ　高低差：330m

第 3 回　冬の多摩丘陵　黒川谷ツ公園･よこやまの道を歩く

多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の時代に思いをはせるコースです。
陽だまりで一足早い春を探してみましょう。

開催日：2025 年 1 月 26 日(日)
申込締切：1 月 18 日
集合：小田急多摩線はるひ野駅**北口**　10:00
解散：黒川駅　15:00 頃

コース：はるひ野駅🚻→黒川谷ツ公園→はるひ野駅🚻→よこやまの道→黒川駅🚻
高低差：100m

各イベントともに、
定員：50 名（申込順）　参加費：1,500 円（当日徴収）
持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装
<申し込み>：認定 NPO 法人　かながわ森林インストラクターの会　自然観察部会
1) QR コードで
2) e-mail：kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp　へ
3) 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604　へ往復はがきで
森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。
お問い合わせ：TEL 080-8712-3804　担当 西岡